



しばはら

〈学校教育目標〉 明るく さわやかな子の育成

さいたま市立芝原小学校

さいたま市緑区芝原2丁目5番地

TEL 873-4133 FAX 810-1123

Web <http://shibahara-e.saitama-city.ed.jp>

センスオブワンダーを芝原っ子に

校長 吉岡 貴和



レイチェルカーソン

1960年代のアメリカで、まだほとんど知られていなかった農薬の害を取り上げ、研究と著作に取り組んだ女性生物学者がレイチェルカーソンです。当時は男性ばかりの職場であった研究者となったカーソンは、優れた文才で自然破壊に警鐘を鳴らすたくさんの作品を書き上げています。しかしその文章はみな穏やかで、まるで森や海辺を歩いているような気分になさしてくれます。今、盛んに言われているSDGs「持続可能な開発目標」の扉を開いた人だと言えるでしょう。

私は今から15年ほど前、「環境教育」をテーマに1年間、研修をしました。小学生の環境教育では、公害や環境破壊などのような問題点に目を向ける以前に、まず生きるために大切な豊かな感性を身につける事を第一の目標とします。それを端的に示しているのが今月のタイトル「センスオブワンダー」です。同名の本の中でレイチェルはこう書いています。

もしも私が妖精に話しかける力を持ったとしたら、妖精たちにこのように頼むでしょう。
「どうか子どもたちに終生消える事のないセンスオブワンダー、
不思議な物や神秘的なものに感動する力を与えてください。」

子どものころ持っているみずみずしい感性、これを大人になっても持ち続ける事は、人生に楽しみや深みを与えてくれると思います。妙に冷めてしまうのではなく、いつまでも、不思議だなあ、きれいだなあ、という言葉が出てくる人間に芝原っ子には成長してもらいたいと思います。そういえば「となりのトトロ」でも「すすわたり（まっくろくろすけ）」を見たというメイとサツキに、お隣のお婆さんが「私も子どもの頃には見えたんだ」と話すシーンがありました。ところで皆さんは最近、感動しましたか？

(画像 Wikipedia より)

今、校長室前には不思議だなと思ってもらえる展示をしています。密にならない様に、前の人と間隔をとって体験して下さい。きっとあなたの「センスオブワンダー」がもっともっと磨かれますよ。

